



## 聞き手

大竹利幸  
編集委員



# 清水 國明

さんに聞きました

SHIMIZU Kuniaki

## 必要なのは自分でつくる

——清水さんは、芸能界でもアウトドア派、スローライフ実践者として知られ、さまざまな活動をされていますが、1995(平成7)年にアウトドアライフネットワーク「自然暮らしの会」を設立し、その代表をされています。これはどういったものなのですか。

**清水**——ボランティア活動として10年前からやってきたことですが、週末だけ職人をやりたいという人たちの集団です。モノづくりを中心に、必要なものは自分でつくり、つくれないものは必要のないものだと割り切ってしまう。必要を水増しして生

きるとしんどくなります。もっともっと、と考えると、そのためにずっと働きっぱなし、ずっと準備ばかりしている人生になります。人生は働くためにあるのではなく、生きていくということを実感して、楽しむためにあります。つくれないものを、人につくってもらおうとするから、お金がかかる。自分でつくればお金はかからないし、つくっているプロセスも楽しくなる。そういうことで、人に何かをしてもらわないと生きていけない暮らしではなくて、自分でできる自分なりの自然暮らしのスタイルを見つけてほしいということで、活動してきたのが「自然暮らしの会」です。——こちら富士河口湖町の森の中

に、自然体験とモノづくりの総合アウトドアパーク「森と湖の楽園」を開園され、今そのリニューアルが行われているようですが。

**清水**——2003(平成15)年に「河口湖自然楽校」を建設して、NPOとしてやってきました。これまで、金なんかいらん、金持ちなんてロクなものじゃないと、言ってやってきたんですけど、本当に何かをやるうとしたときに、お金に邪魔されるんです。やっぱりお金なのかと(笑)。「これ、やりたい!よし、やるぞ!」と思っても、また金かよということで、金にすごくいじめられました。

また、ここをNPOにしたときは、自分の好きなことを活かして、世の

中にいいことをしようと思ってやったのですが、継続してやっていくには、自分も幸せになっていかないと無理なんです。誰かのために自己犠牲でやるっていうのは、2年か3年が限界です。それで、NPOをやめて株式会社になりました。たくさんお金を投資してもらい、それで世の中のためになる事業をする。それでIPO(株式公開)を目指しています。NPOからIPOへ。言葉、似ていてしょう。今日の段階で3億5,000万円を集めました。僕、意外とお金集め上手なんやなと思いましたね(笑)。

### ■ 自然の中にいざなう人が必要

——今回、リニューアルされて、5月1日から劇場もオープンされますね。

**清水**——10年以上自然体験の取り組みを行ってきたのですが、最終的に動員力が、自然体験では弱いんですよ。今、世の中で一番問題なのは、自然と人の生活が離れてしまったことで、それで子どもの問題や教育の問題、環境の問題が起きている。だから、人の暮らしの中に自然の力を活かそうということで、いいことをしているのに人が集まらない。それが悔しくてね。先入観を捨てて、1回でも来てくれたらわかってもらえる。こうなったら、だましてでも連れてこようと決めたんです(笑)。それには面白いこと、楽しいことをやればいい。それで「森の劇場・河口湖SHOW園」をつくりました。ここは全部が森という自然の劇場なんです。自然食レストランとか、ロハスホールとか、いろいろ遊んでもらって、身体が喜んでいことに気づいてもらう。それでリピーターになり、

安定的な会員さんになってくれて、自然に目覚めた人たちがどんどん増えてくれたらいいなと思って取り組んでいるんです。

——首都圏で週末職人工房の講座をやられていますね。

**清水**——アウトフィッターを養成する講座を首都圏でやっています。自然と暮らしをつなぐ人、それがアウトフィッターです。講座でライセンスを取った人が、こういうところで活躍したり、自分の近所の人や家族や友達を連れて、自然の中で自然の暮らしを進めていく。そうした人を全国的に養成しようとしています。——ライフワークですね。

**清水**——僕は今55歳ですけど、これからはこれに特化して、全財産、全エネルギーを注いでいきたいと思っています。そうすれば、かなわない夢はない。スタートの考え方が間違っていなければ、成功するはずですよ。考え方に私心があり、動機が善でなかったら、どんなに努力したってうまくいきません。今、皆さんからご出資をいただいたり、仲間が集まってきたり、本当に奇跡がいっぱい起こって進んでいるので、間違っていないと思っています。自然の素晴らしさに気づいてもらい、みんなの心と身体を健康にするために、自分の知っているノウハウを提供し、それが有機的に全国的にも広がっていけばと考えています。

### ■ 楽しむよりも楽しもう

——土木というものに対して、何かお感じになっていることはありますか。

**清水**——安全や快適に集中しすぎるのは、よくないと思います。楽な生

活、快適な生活を追及しすぎて、人は本来もっている能力を落としています。今はデジタルでフォローしているので、伸びているように感じているのです。僕は、衣・食・住・遊、すべて自分でつくっていますけど、今の若い人は何にもできない。火もおこせないし、魚もさばけない、木にも登れない。これって、人類とは言えませんよね。四季の変化を肌で感じて、毎日毎日感動できる生活をしなければいけない。生きているのか死んでいるのかわからんような楽な生活がベストだと思って、企業もインフラもそっちに流れている。もっと、人間の能力を活かすようなまちづくり、社会づくりをしていく必要があると思います。富士山に登るのも、ヘリコプターで行けば一番楽ですが、自分の足で登ると感動が違いますよね。楽するよりも楽しもう。自然の中に行くと、都市生活の中で眠ってしまった人間本来の機能を目覚めさせるスイッチが押されるんです。そういうものに気づくのが自然で、そこに行きたくなるようなインフラをつくってもらいたいと思いますね。

